早稲田大学
図書館紀要
第65号

所蔵と研究

図書館長　深澤良彰

この秋、東京国立博物館平成館において、「運慶展」が開催された。そこに、早稲田大学図書館所蔵の重要文化財「法眼運慶置文」が出展されている。唯一の運慶自筆の書は、居並ぶ国宝、重要文化財の仏像などに交じっても引けを取るものではない。また、大学からは唯一の出展であることも誇って良いものである。

最近でも、寄贈の話がある。「法眼運慶置文」のように、巻物一点で、しかも、それが重要文化財であるなどというものなら、喜んで寄贈を受けられる。しかし、規模の大きな、そして、その価値が現時点では未確定なものについては、そうはいかない。今の図書館はすでに満杯状態で、このような寄贈を安易に受け入れることはできないからである。

このような場合、図書館外に、その展示場所を求めることとなる。しかし、学内もすでに満杯状態であり、簡単に適切な場所を得ることは難しい。場所取りにいった時に問題になるのは、その資料が、活用されるのか、死蔵されるのかという視点である。資料の活用については、研究者との密接な関係を構築する必要がある。

私が館長になって以来「図書館という『館』から出る」を目標の一つとしているが、こんな点でも、館の外に出た図書館職員による所蔵と研究を結びつけるような活動を期待したい。

2018年3月